

# Close Up News

クローズアップ・ニュース

NHKが2度に渡り女性のパチンコ依存問題を放送

## 女性のパチンコ依存「75万人」？ 根拠薄い数字が独り歩き

「2」 010年の厚生労働省の発表によると、成人女性の1・6%がギャンブル依存症。成人女性の人口はおよそ5400万人なので、換算すると56万人になります。

NHKの朝の情報番組「あさイチ」が昨年11月21日、女性のパチンコ依存問題を取り上げた。そこで、厚労省の発表した数字に次いで、番組独自の結果としてギャンブル依存の8割はパチンコにハマっているとした。その後、同じNHKが今度は「追跡！真相ファイル」という30分番組で「パチンコにハマる女たち」と題した特集番組を組み、ここでも同じ数字を引用している。番組では、パチンコにのめり込む女性のインタビューに始まり、依存症のメカニズムや三点方式の紹介、女性がひとりでも入りやすいためのパチンコ店事情、治療についてのパチンコへのインタビューと進み、社会全体でギャンブル依存症対策を進めた韓国の取り組みを

紹介。さらに、リカバリーサポート・ネットワークを取材し、業界は独自に対応しているが、国を挙げた対策は取られていないのが現状だと指摘した。

わずか30分の番組内に多くの取材を詰め込んだせいか、業界内では「NHKにしては薄い内容だった」という声が多い。「パチンコ叩きといった感じの作りではなかつたので安心した」という声もある。また、若宮健氏の「なぜ韓国は、パチンコを全廃できたのか」が出版されて以来、風適法で規制される日本のパチンコと、事实上、野放しになっていた韓国の「メダルチギ」との比較がなされる展開が続いていることに、もどかしさを訴える業界関係者も多い。

その一方、平成8年のパチンコ語版は、カットオフの基準を引き上げるべきではないかという意見も載せており。いわば、NHKの「女性のギャンブル依存75万人のほんどのパチンコ・パチスロ」という数字の歩きの懸念の声も出ている。が、その懸念通り、この数字はもはや

インターネットを中心に独り歩きしており、しかも、ギャンブル依存の8割がパチンコ依存であれば、これは60万人となるところが、「女性のパチンコ依存75万人」として引用されている。

この数字が事実であれば、これが社会に広まるのは致し方ないだろう。ところが、厚労省のホームページには、NHKの番組で根拠になったはずの数字は見あたらぬ。それでもそのはず、日遊協の担当者が調べたところによると、数字の元になつたのは、同省の科学研究費補助金研究事業として飲酒に関する実態や生活習慣病をまとめた報告書内に出てきた調査結果の引用であった。

このレポートでは、「問題飲酒」と病的賭博のスクリーニングテストを行い、その結果、病的賭博の推定有病率は男性9・6%、女性1・6%としている。ただし、レポートではこれを暫定値としているほか、病的賭博に関する「SOGS」という10項目テストの日本語版は、カットオフの基準を引き上げるべきではないかという意見も載せており。いわば、NHKの「女性のギャンブル依存75万人のほんどのパチンコ・パチスロ」という数字の歩きの懸念の声も出ている。が、番組制作にあたっては、当初、日遊協や全日遊連も協力していたという。が、依存症や三点方式などナーバスな問題が軸になることが明確になるにつれ、制作協力に慎重姿勢になつていったそつだ。

番組内には他にも疑問視される部分が多くあるが、もとより依存問題については、もう少し業界の対応を進展させるべきだという声も多い。「きちんと説明できる業界」と「きちんと理解してくれるメディア」の関係性を確立するには、依存症問題に限らず社会と向き合ったための施策を推し進める必要性があることが、今回の番組で浮き彫りなったといえるかもしれない。